

外国語科

コミュニケーションの楽しさを実感する授業づくり ～子どもの想いを生かした言語活動を通して～

新潟市立五十嵐小学校

有坂 梢雪 (H28年度)

(主張)

コロナ禍により対面でのコミュニケーションが減った。そして子どもたちのコミュニケーションにおける様子が変わった。一方的に話を進めてしまう子, 自己開示を拒む子, 言語での感情表現がうまくいかない子。そんな子どもたちが, コミュニケーションを取ることを嫌いにならないよう, まずはコミュニケーションの楽しさを実感させたいと考えた。

楽しさを実感させるためには, 伝えたいという**想い**, そのためにどうするとよいか**思考**させる場, 求めていた**相手からの反応**を得られるような言語活動の設定が必要だと考える。この「**想い**」「**思考**」「**相手からの反応**」の3つの要素を授業に取り入れることで, 子どもは「何度も考えて工夫した結果, うまく伝わった!」「喜んでもらえた! 嬉しい」とコミュニケーションの楽しさを強く実感するのではないだろうか。